



(写真) @EdmundoGU “野党統一候補エドムンド・ゴンサレス氏のインタビューから考えや人柄を考察”

エドムンド・ゴンサレス

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

エドムンド・ゴンサレス氏がベネズエラのメディアに登場したのは、約1カ月半前の2024年3月26日。「野党統一連合(MUD)」は、暫定的にゴンサレス氏を大統領選候補に推薦した。

当時、新たな候補者が決まるまでMUDの席を埋めるだけの人物だと報じられたが、4月19日にMUDはゴンサレス氏を正式に野党統一候補に指名。マリア・コリナ・マチャド氏もゴンサレス氏を支持した。

本稿では、筆者がゴンサレス氏のインタビューを見て受けた印象や彼の方針について考察したい。

政治的に無名の元外交官

最初に、エドムンド・ゴンサレス氏についての基本的な情報を確認したい。

エドムンド・ゴンサレス氏は1949年8月29日生まれ(74歳)。アラグア州La Victoria生まれ。ベネズエラで最も信者が多いカトリック教徒。

ベネズエラの元外交官で、確認できたキャリアは、在ベルギー・ベネズエラ大使館勤務(三等書記官)、在米(ワシントン)ベネズエラ大使館勤務(一等書記官)。

在アルジェリア・ベネズエラ代表大使(1991年~93年)、在アルゼンチン・ベネズエラ代表大使(1998年~2002年)。

故チャベス元大統領は、1999年から大統領だったので、チャベス政権下でも大使を務めていたことになる。

直近では2013年～15年にかけてMUDの国際部メンバーを務めたこともあり、MUD国際部の代表になったこともある。

スペイン語はもちろん、フランス語・英語も堪能なようだ。

他、ゴンサレス氏の健康状態だが、高血圧の薬などは飲んでいるが、特に重篤な病気は抱えていないという。

家族は結婚して50年になる妻がおり、子供は娘が2人。2人とも子供を2人授かっており、4人の孫がいる。

娘の1人はカラカス在住(教育系の仕事)。もう一人の娘はスペイン(マドリッド)で弁護士の仕事をしている。

ゴンサレス氏は、政治家として表に出て活動をしたことは無く、全く無名の人物。ゴンサレス氏自身も「自分が大統領選の候補者になるとは一度も考えたことはなかった」とコメントしている。

対立と分断の政治習慣を止める

ゴンサレス氏は、大統領選候補者としての知名度を上げるため複数のインタビューに出演している(ゴンサレス氏自身がそのように述べている)。

インタビューの中には同じような質問も多く、ゴンサレス氏は度々同じ回答をしており、それがゴンサレス氏の考えの根幹になっている印象がある。

以下ではインタビューの中で度々ゴンサレス氏がコメントしていた内容をいくつか紹介したい。

印象的だったのは「マドゥロ政権との衝突は望まない」というもの。

ゴンサレス氏はインタビューの中で極力マドゥロ政権を批判しないようにしている。

また、「今後、あなたへの人格攻撃があると思うがどのように対峙するのか?」という記者からの質問に対して、

「現在のベネズエラの政治は対立と分断が基本となっているが、それは本来のベネズエラの政治ではない。私は他者への攻撃の習慣を止め、元のベネズエラに戻したい」とコメントしている。

「マドゥロ大統領についてどう思うか?」との質問について

「倒すべき敵ではない」「我々が想像する新しいベネズエラにそのような考えは必要ない」とコメントしている。

他、「平和的な政権交代のために出来ることは全て行うべき」「政権移行は他者との調整が不可欠」とコメントしており、マドゥロ政権幹部・マドゥロ大統領との対話にも前向きな姿勢を示した。

選挙キャンペーンは MCM 氏が主導

記者から必ず聞かれる質問の1つはマリア・コリナ・マチャド氏（以下、MCM）について。

まず、ゴンサレス氏は「時には MCM 氏に同伴する可能性はある」としながらも、基本的に今回の大統領選で全国を回ることはないと言明している。

「MCM 氏が予備選で勝利したベネズエラの絶対的なリーダーであり、彼女が国民の支持を受けている」としており、基本的に MCM 氏が全国各地を周り、投票を呼び掛けると説明している。

なお、今後は MCM 氏だけではなく、「統一プラットフォーム (PUD)」の政治リーダーも地方を回る予定のようだ。

他、「大統領選で当選した暁には MCM 氏に政権を譲るのか？」との質問について、「暫定大統領の可能性も否定しない」と理解できるような回答をしている。

また、「大統領選に当選した暁には MCM 氏を副大統領に指名するのか？」という質問もあるが、現時点では明言できる状況ではないようだ。

日本もベネズエラの伝統的な同盟国

エドムンド・ゴンサレス氏が元外交官だからというわけではないが、ベネズエラの現在の外交については度々聞かれるテーマである。

ゴンサレス氏は、現在のマドゥロ政権が勧めている外交方針について「伝統的なベネズエラの外交方針とは異なる」「イラン・ベラルーシなどと関係を強化しているが、これらの国はベネズエラの伝統的な同盟国ではない」とコメント。

「伝統的なベネズエラの同盟国とは？」という質問について、「南米・米国・欧州・中国・日本・アジア」と回答。日本の名前も個別にコメントしている。また、中国も同盟国として含んでおり、中国との関係も維持したい意向を示している。

また、「ベネズエラは信頼できるエネルギー供給国としての能力と地位を回復する必要がある」としており、政権交代後は経済・政治・社会の立て直しに着手すると述べている。

雰囲気の良い上品なおじいさん

以下では複数のインタビュー番組をみて筆者がもったゴンサレス氏の印象を紹介したい。

ゴンサレス氏の印象を一言で現すと「雰囲気の良い上品なおじいさん」である。

インタビューの中で回答しにくい質問にも丁寧に答えており、声を荒げることはなく、終始穏やかにインタビューは進んだ。

マドゥロ政権についてコメントする際、多くの野党政治家は怒りや憎悪が発言の端々ににじみ出る（あるいは全面に押し出す）が、ゴンサレス氏の発言はそういった印象を与えない言葉選びをしている。

質問に対する回答も分かりやすく、話が脱線することもない。年齢的な不安を感じさせず、個人的には好印象だった。日本人にとって受け入れられやすい人物ではないだろうか。

ただし、ベネズエラ国民にこういった政治家が受けるのかは分からない。

ベネズエラでは故チャベス元大統領が絶大な支持を受けた。彼が人気を博した理由の一つはカリスマ性とフランクな言動である。

ゴンサレス氏は、エリート外交官であり雰囲気の良い人物だと思うが、故チャベス元大統領が持つような突飛さや面白みはない。ベネズエラ人の中には物足りないと感じる人も多いのかもしれない。

MCM 氏の政治スタンスと真逆？

また、もう一つ思ったことはゴンサレス氏のスタンスは MCM 氏のスタンスと矛盾する部分が多い。

MCM 氏はマドゥロ政権を強く批判するタイプの政治家であり、ゴンサレス氏の言う「対立」を連想させる政治家である。

また、ゴンサレス氏は「政権交代には相手との調整が必要」との認識を示しており、政権交代の際にはマドゥロ政権関係者に譲歩する可能性を示唆している。

一方、MCM 氏は「罪は償わなければいけない」としておりマドゥロ政権への譲歩に否定的である。

ただし、最近の MCM 氏の行動は、この数年間彼女が掲げてきた方針とは大きく異なる。

MCM 氏は、ここ数カ月はマドゥロ政権に対する強い批判や挑発的な発言は控えている。

ゴンサレス氏が MUD の候補に選ばれる前、MCM 氏はコリナ・ジョリス氏を後継候補者に指名。しかし、CNE はジョリス氏の出馬を受け入れなかった。この状況でも MCM 氏はマドゥロ政権への批判を極力制限し、選挙ボイコットを呼びかけることなく、最終的にゴンサレス氏の支持を表明した。

米国政府が MCM 氏に対して、妥協を促したとの報道があり、筆者はおおむね事実だと考えている。

米国政府が MCM 氏をコントロールできるのであれば、ゴンサレス氏主導で政権交代のために一定の妥協ができるのかもしれない。

もちろん、マドゥロ政権を強く批判する MCM 氏のスタンスが政治を前進させる原動力になっており、彼女の存在がなければ次の大統領選で政権交代が実現する可能性は低い。

ゴンサレス氏の柔軟さと MCM 氏の強硬さがうまくかみ合えば、良い結果を生み出すことができるのではないか。

以上